



「環境の構成」が支える深い学び

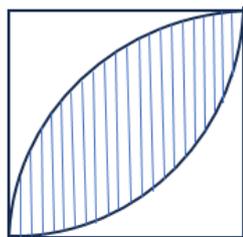
少し前になりますが、西部地区のある小学校が「学校全体の学力が大きく伸びている」という話題を耳にしました。調べてみると、その背景には、一人の「学力向上コーディネーター」を中心とした、組織的な授業改善の取組がありました。

「学校全体の学力を底上げする先生は、どのような授業をしているのか。」

長く抱えてきたこの疑問を、昨年ついにその先生の算数の授業を参観することで確かめることができました。

教室に入った瞬間、まず感じたのは子供たちの熱気でした。子供たちが取り組んでいたのは、正方形の中に描かれた2つの円の交差部分（レンズ型）の面積を求める問題でした。グループに分かれて答えの出し方をまとめていましたが、考え方の近い者同士でうまくグルーピングされていたこともあり、問題解決に没頭できる「場」が整っていて話し合い自体がとても生き生きしていました。

さて、先生はというと、教室のやや後ろ側の窓際に立ち、子供たちの様子をじっくりと丁寧に観察しています。各グループの考え方や視点を褒めながらやる気を高めていました。時折、グループの一つに近寄り、優しくヒントを与えます。子供たちは先生の言葉に「そうか、ここに線を引けばいいのか!」「なるほど、扇形が重なっている!」



「わかった!これからこれを引けば?」などと反応し、問題を一生懸命考えていました。答えを導く過程をノートに書きながらも、ひらめいたり気づいたりしたことが嬉しくて、手が追いつかない子供もいました。

この授業で、先生が子供たちのあらゆる思考のパターンを予想していたのはもちろんですが、ヒントを与えるタイミングが絶妙でした。「今しかない」という、いわゆる「ティーチング・モーメント」を的確に捉えた関わりは、見ていて本当に感心させられました。印象的だったのは、先生が「答え」ではなく「考え方」を丁寧に評価していたことです。思考のプロセスを認められた子供たちは、自信をもって意見を発表し、学びにまっすぐ向かっていました。

子供たちが迷わず学びに向かえる環境を整え、必要な支援を最適なタイミングで届ける。この算数の授業は、まさに「環境の構成」を体現した実践でした。そして、こうした実践が学校全体に広がり、確かな学力の土台を築いているのだと実感しました。

実は今年度、私が参観した多くの授業で、同じような光景を目にしました。こういった質の高い授業が、子供たちの「学びに向かう力」を育み、群馬県の教育を支えているのだと思います。日々、一人一人の子供に寄り添い、その成長を支えてくださっている先生方に、心より感謝申し上げます。

来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

○各教科等授業改善プロジェクト ※詳細は下記リンクよりHPにて御覧ください。

[【社会】甘楽町立福島小学校、甘楽町立甘楽中学校](#)

[【図工】高崎市立入野小学校](#)

[【学活】安中市立原市小学校](#)



子どもたちの主体性を育むために～大人が示すエージェンシーを発揮した姿～

人が誰しも生まれついて持っている自分と社会をより良くしようと願う意思、原動力「エージェンシー」。これは、予測困難なこの時代を自分らしく幸せに生き抜くために欠かせないものです。

子どもたちのエージェンシーを育むには、大人のエージェンシーを発揮している姿を見ることが極めて重要だと言われています。例えば、教師が授業の中で子どもと共に学ぶ、保護者が願いや思いを言葉にして子どもと向き合う、地域の方々が経験や強みを活かして楽しみながら子どもたちと関わる。こうした大人のエージェンシーを発揮した姿こそが、子どもたちにとって最高のモデルとなります。

ここで注目したいのが「ミラーニューロンの働き」です。子どもは、大人の言葉遣いや態度、行動をまるで鏡のように脳内に映し出すと言われています。つまり、大人がエージェンシーを発揮する姿そのものが、子どもたちの学びの源になると言えます。大人が自らの意思で動き、他者と協働し、失敗を恐れず挑戦する。その姿を見た子どもたちは、「自分もやってみよう」「あんな風に生きたい」と願い、自然と主体性を育んでいきます。私たち大人の振る舞いが、子どもたちの未来を形作ります。

誰もが変化の激しいこの時代を自分らしく幸せに生き抜く力を手にするために、大人も子どももエージェンシーを発揮できる学びの環境を創造していきましょう。



上野村学校運営協議会

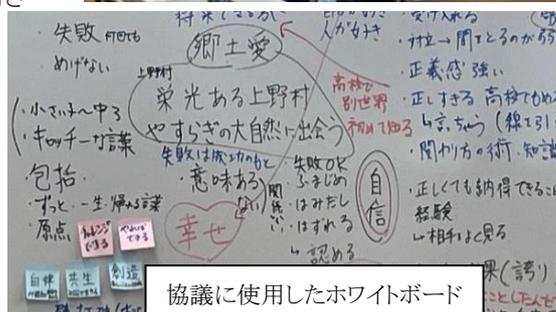
上野村では、小中学校に一つの学校運営協議会を設置し、地域全体で子どもの成長を支える体制づくりを進めています。令和7年度は次年度の教育目標をテーマに、地域住民の代表者である委員が、それぞれの立場や世代を越えて活発に意見を交わしていました。子どもたちのよりよい成長を願い、一人ひとりが主体的に協議に参加する姿は、自ら課題に向き合うエージェンシーを発揮する姿そのものです。

村教委は、学校・地域・保護者の間に垣根をつくらない対話の場づくりを意図的に進めており、こうした働きかけが大人の主体的な関わりを後押ししています。

上野村の学校運営協議会は、地域全体で子どもたちの成長を支える持続可能な仕組みとして確立されています。



学校運営協議会の様子



協議に使用したホワイトボード

社会教育施設

西部管内の県立社会教育施設では、子どもたちの成長を支えるために教員籍のスタッフが日々力を尽くしています。学校を離れ、社会教育施設で活躍する先生方は、それぞれの立場から子どもたちの成長を後押しするために、工夫を凝らした展示や教材、プログラムの開発に取り組んでいます。

社会教育施設のスタッフは学校現場とは異なる環境に身を置きながらも、子どもたちのためにと仕事に向き合い、目を輝かせてエージェンシーを発揮しています。



歴史博物館と高崎市文化財保護課が協働したこどもセミナー「発掘体験」の様子

歴史博物館が実施した「発掘体験」に参加した児童からは「みなさんと同じように発掘に携わる仕事をしてみたい」という声が聞かれました。発掘の魅力を伝えるスタッフの姿が、子どもたちの「やってみよう」という思いを引き出したのでしょう。

西部管内の社会教育施設には、子どもたちへの思いが込められた多様な企画が用意されていますので、学校で積極的にご活用ください。

(※西部管内の県立社会教育施設：歴史博物館、近代美術館、自然史博物館、土屋文明記念文学館、世界遺産センター、日本網の里)